

戦争のこわさを知る

旭丘小学校 5年 辻村 佳穂

私が今生きているこの瞬間も、世界のどこかで戦争が起きていると母から聞いた。そこで、テレビでニュースを見てみると、家が崩されて寝るところがない人、食べ物が食べられない人、ケガをした人が映っていて、ジュウを持って戦っている人もいた。みんな生きているのに必死だった。なぜ人は戦争をするのだろうか。そこで、私はまず日本で昔起きた戦争について知ることが大切だと思い、愛知・名古屋戦争に関する資料館へ行った。

資料館へ入ったら空しゅうを知らせるサイレンが鳴り響き、錆びて穴があいている二百五十キログラム爆弾が置いてあり、びっくりした。さらにスクリーンにはE四十六集束焼夷弾が空から降ってきて一面焼き野原になっている映像を見て言葉を失った。そこに住んでいた人々はどうしただろう。自分がその場にいたらどんなに怖くて悲しくて、死んでしまうかもとおびえたり家族や友達は大丈夫だったかを心配しただろう。

また、写真がいくつも展示してある中で、男の子は少年工員として武器をつくるのに借り出されていて、女の子は運動場でさつまいもを作っている様子の写真を見て驚き、立ち止まった。いつも私が通う学校と戦争中の学校の様子を比べると、学校でみんなが集まって先生から国語や算数の授業を受けていたり、図工の時間には絵を描いたり、楽しく工作するのが当たり前だと思っていたが、武器を作っていたので衝撃だった。友達と放課に遊ぶ遊具はなく、運動場は全て畑に変わっていたので、それだけ食べ物がなかったのだろう。

学校の授業はカルタだった。カルタの内容は、「へいわを目指すこの刃。」などの軍人が戦場で守るべきことを書いたものだった。小さいころから国のために戦うことはいいことだと教えてもらっていた。平和を目指しているのに、戦わなければならないという部分が私には不思議だった。

私はこれまで戦争のない平和な時代が当たり前だと思っていた。私の思う平和は何か色々考えてみた。平和は、ごはんがいっぱい食べれて、安全だし、沢山遊べたり、学校に行けたり、きれいな服を着ることができる。大きくなったら何になりたいかを考えることができる。

平和は戦争とは大違いだ。戦争は私の想像以上に恐くて、もう二度と

起こしてはいけないと思う。そして、平和を目指すには、戦うのではなく、みんなが笑顔で自分とみんなを大切に思っ暮らすことだと思う。